

すばる小委員会の記録

2010年5月～2011年1月

回	開催日	所長報告	すばる運用
SAC1	2010/5/21	所長はex-officioでSACの正式メンバーと認識してほしい。 UH/UKIRTについてはSACマターでなく光赤外専門委員会マターだ。 林所長は6/1付けで東大に転出し、高見副所長が所長代理になる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>FMOS戦略枠公募要項案の検討(概ね原案通り承認)</li> <li>2011年のダウンタイムが当初予想より減らせる見通しになり、一般公募観測がほとんどできない事態は避けられそう。</li> <li>FMOSチームの進捗状況の報告(戦略枠提案は150夜程度に縮小予定)</li> <li>S10BのFMOS GT 10+-2夜の承認</li> </ul>
SAC2	2010/6/15	高見所長代理の挨拶	<ul style="list-style-type: none"> <li>公開されたFMOS戦略枠公募要項の確認及び一次審査を依頼する有識者の選任</li> <li>TAC報告(Geminiとの時間交換最低5夜は厳しい。ダウンタイムがある場合は減らせるように。プロポーザルの技術情報をSJでなく正しい欄に記入してほしい)</li> <li>望遠鏡時間の変則要求について(Geminiのキュー観測利用も考えられる。当面現状維持でUMでユーザーの意見を聞く)</li> </ul>
SAC3	2010/7/13	所長欠席のため委員長からの報告、 <b>ハワイ観測所連絡会の設置が幹事会議で決まった。小林財務担当副台長、野口すばる室長、有本委員長の3人。</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>すばる装置計画WSを9/9-10の内の一日半で開催する。</b>PFS(主焦点分光器)をどうするかが中心議題。4月の所内検討会では個別の装置計画がかなりあることがわかった。</li> </ul>
SAC4	2010/9/21	ハワイ観測所連絡会の発足、及び第1回会合の報告: <ul style="list-style-type: none"> <li>論文出版数における国内研究者の比重の低下が懸念される</li> <li>HSC進捗は順調</li> <li>PFSを共同利用装置として受けれるかどうかの検討が今後必要</li> <li>装置ロードマップの作成や広報活動のいっそうの充実が今度の課題</li> </ul> Keckとの時間交換の際、交換夜数は1期ごとでなく4期で均等化を目指すこととした。	<ul style="list-style-type: none"> <li>FMOS戦略枠の審査の流れの確認(S11B開始に間に合うように2011年3月までに審査を終了する)</li> <li>TAC委員長からの報告・要望(S11Aは応募数が多かったので、戦略枠やGTOが共同利用時間を圧迫しない配慮を希望する。来年のTAC改選時には1名増員が必要)</li> </ul>
SAC5	2010/10/19	<ul style="list-style-type: none"> <li>Keck UM参加報告</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>S11A GTOの承認(LGS-AOは5夜、FMOSは2夜)</li> <li>FMOS戦略枠の審査状況について(公募には1件178夜の申請があり、有識者3人に予備審査を依頼中)</li> <li>戦略枠の占有時間は、S11Bについては25%という既定の上限内に収まるよう、FMOS戦略枠時間を(採択された場合)減らすこととする。</li> <li>SEEDS進捗報告(AOの故障のために2月以降観測できなかったが、その分解析が進んで3編の査読論文が出版された。観測も間もなく再開できる。)</li> <li><b>SACに物申す1(京都大 長田哲也氏:SACの議論の経過はウェブでわかるがその結果現状がどうなっているかがわかりにくい。SACの継続性が重要。すばるは戦略枠の25%制限を保持し、キュー観測を少量導入し、小規模・近赤外の装置開発を推進してほしい。)</b></li> </ul>
SAC6	2010/11/16	<ul style="list-style-type: none"> <li>観測所内でのPFS検討の現状報告(IPMUと月に一度意見交換会を行っている。直近の会合での情報では赤・青・近赤外の3バンドで高分散は入れられないとのことだ。開発体制についてもできるだけ検討したい。)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>FMOS戦略枠提案の一次審査(有識者意見の読み合わせと議論、質疑応答を経て、提案書の差し戻し・再提出を決定した。銀河進化と宇宙論について各々別個の独立した戦略枠提案として1/14締切で再提出してもらい、戦略枠としての条件を満たしているかは今回の有識者意見を指針としてSACが再審議する。)</li> </ul>
SAC7	2010/12/14	<ul style="list-style-type: none"> <li>CFHTに8-10Mへの改造および主焦点分光器計画があるそうだ。慎重に情報収集していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>TAC報告(村山TAC委員長:S11Aはダウンタイムもなく通常の採択ができた。約二か月のダウンタイムが予定されているS11Bでは学位論文課題への配慮が必要)</li> <li>PFSについて(欠席委員から提出された意見書も参照しつつUMでのSAC提言を検討。条件付きですばるの次世代装置として推奨することとする。付帯条件は1.コミュニティが納得する装置仕様の実現 2.国内体制の確立 3.SAC代表の国際交渉参加 4.材育成のための枠組み作り。国際プロジェクト観測は、戦略枠の枠組みで実施されることになるが、一般ユーザーも公募によって使用できる。)</li> <li><b>国際提案採択に関するユーザーからの提案について(分野別に国際提案の比率を制限してはどうかというもの。議論の結果、TAC判断に任せることとした。)</b></li> </ul>
SAC8	2011/1/21	<ul style="list-style-type: none"> <li>装置開発をサポートするために<b>装置小委員会を創設する予定。</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>SEEDSのデータ公開期限を30ヶ月に延長することを承認(通常は18ヶ月が期限。惑星探査に必須であるフォローアップ観測を行うのに1年を要することから、1年+18ヶ月で30ヶ月)。コミッションングデータの扱いも同様とする。</li> <li>PFSに関するSAC提言書の文案検討(日本語はUMで提示したものとし、その英訳文を検討)</li> <li>再提出されたFMOS戦略枠提案の一次審査を行い、2件ともに一次審査通過課題と認定し、次の審査過程(TACによるサイエンス審査、および体制づくり)に回した。またTACからの要請により、吉田・高田の二委員をサイエンス審査に加わる特別審査委員として委嘱した。</li> </ul>

すばる小委員会の記録

2010年5月～2011年1月

回	開催日	UM、シンポジウム等	光赤外専門委員会	Gemini	その他
SAC1	2010/5/21	<ul style="list-style-type: none"> <li>ALMA-Subaru Science WS をALMA研究会費に申請中</li> <li>第3回すばる国際研究会は2011年5/17-20に伊東市周辺で宇宙における物質循環と銀河系形成をテーマに。</li> </ul>	<p>すばる診断グループからの報告書(保守・運用のための人員と予算を手当てすべき)</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>委員長互選</li> <li>前期SACの議論のあらましを振り返り、今期の課題(FMOS戦略枠、ALMAとの連携、Gemini/Keckとの協力関係、UM準備)を確認</li> </ul>
SAC2	2010/6/15	<ul style="list-style-type: none"> <li>ALMA-Subaru WSのすばる側招待講演者候補を分野別に選任</li> <li>すばるの各種学校をより組織化できないか？(春は学部生優先、秋は院生対象で分けている。地方大学は事情が異なるとの意見も)</li> <li>光天連で解析一般のテキストを作成する計画で、協力していただきたい→既存のテキストを有効利用するとよい。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>副委員長に吉田道利委員を選出</li> <li>今年度のSACの開催予定(原則第三火曜日)</li> <li>SuMIReのフランス側との会議について</li> </ul>
SAC3	2010/7/13	<ul style="list-style-type: none"> <li>ALMA-Subaru WS2010を9/29～10/1の3日間開催する。暫定プログラムと招待講演候補者の検討。</li> <li>一般向けのすばるの成果を発信する講演会の企画を開始</li> </ul>	<p>昨年度光赤外専門委員会から台長宛の報告書について(国際プロジェクトを推進する力量のある人材の育成が重要)</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>IPMUからSuMIReの現状報告(分光器予算は大幅に不足しているので、海外の無償の人材を使う、国際協力の推進、高分散の断念を柱に検討中)</li> <li>SPICAの現状報告(プロプロジェクト概念設計一段階でプロジェクト移行のための審査や観測装置審査が進行中)</li> </ul>
SAC4	2010/9/21	<ul style="list-style-type: none"> <li>将来装置計画WS報告:各分野の研究者がPFSでやりたいサイエンス、仕様の希望を述べた。さらに仕様の検討を進めて12月にSAC、IPMUの共催で第2回検討会を行う。</li> <li>ALMA-Subaru WS 2010のプログラム紹介</li> <li>UMの日程を1日前倒しして2011年1/19-20とする。</li> </ul>	<p>今年度の光赤外専門委員会が発足し、SACも正式発足となった。任期は2010年7月からの2年間となる。</p>		
SAC5	2010/10/19	<ul style="list-style-type: none"> <li>Keck/Gemini関係者をすばるUMに招待する(所長)</li> <li>UM世話人はハワイ観測所から岩田、今西、服部Tの各氏、SACから有本委員長、高田委員、三鷹スタッフから竹田氏。</li> <li>12月のPFS検討会について(SACおよび観測所メンバーがSOC/LOCに加わり、議論を深める)</li> <li>ALMA-Subaru WSは盛況だった。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>GeminiとのMOU改訂案の承認(キュー観測に関する追加。採択されたキュー観測時間が50時間未満の場合は1夜をBand1の7.5時間に換算。50時間を越えたらBand1-3に振り分けて1夜を10時間に換算)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>SPICA進捗報告(日本主導の装置は中間赤外撮像・分光装置と中間赤外コロナグラフの2つに。12/16-17にサイエンスWSを開いて装置計画を説明する)</li> <li>京都大学院生・スタッフとの懇談会</li> </ul>
SAC6	2010/11/16	<ul style="list-style-type: none"> <li>UMではPFSが中心議題になるが、類似のWFOS計画については過去にユーザーが同意した経緯があるので、それとの差異に着目して議論を進めたい。</li> <li>PFS検討会の概要(予定)の紹介(国際競争力の観点、4M望遠鏡とすばるの比較が重要)</li> </ul>	<p>11/2の光赤外専門委員会で7月と9月のSACの報告</p>		
SAC7	2010/12/14	<ul style="list-style-type: none"> <li>UMの際に国際パートナーと懇談するためにSACランチを設定する。詳細は世話人に一任する。</li> </ul>			
SAC8	2011/1/21				